ハローシニア佐倉

(公社)佐倉市シルバー人材センター

(公社)佐倉市シルバー人材センター ホームページ

シルバーフェスタ 2023

4年ぶりの開催

有難うございました

会場設営　シルバーの祭典が4年ぶりの開催となった。曇天で小雨の中、早朝5時には看板・コンロ・発電機などが搬入され、6時までには会場設営の為の各種レンタル品も納入され、設営担当のメンバーが二十数名集まっていた。ラテンなど軽音楽が流れる中テントの組み立てが始まり、7時ごろからは看板・のぼり旗の組み立てなども始まり8時頃までには会場周辺への設置も終了。

来客準備　8時頃までには各テントごとの担当者も集まりそれぞれの準備がスタート。9時半頃に一時雨も止み薄日が差しかけて来るが、しかし直ぐに小雨が降ってきたのです。

オープン　皮切りのイベントとして期待されていた臼井南中学のブラスバンドの演奏の中止が発表された。10時の予定だったのです。「えーやらないのー」という親御さんや身内の方々と思われるところから聞こえてきました。それでも傘をさしながら既に開店準備を済ませた物販・野菜・唐揚げなどの惣菜売り場及び女性部会の担当するバザー店舗に人々が向かいます。

オープン

ダンスチーム

薄日が差し始めた10時40分、赤や黄色の衣装でメンバーが姿を現すと「うわー」という歓声と共に一斉に拍手が起きてきました。やっとイベントらしくなってきたのです。メンバーは小学校1年から高校生位の男女です。広場の中央に踊り場が設定されると沢山の人々が周りを取り囲む様に集まりました。リーダーの掛け声と音楽と共に演技(最初は小学校1～3年組約20名)が始まると「うわーすごい」「かっこいい」などと歓声があちこちから聞こえてきました。

10時15分頃から雨が小さくなり傘をさす人も少なくなってきました。ダンスチーム(うすい駅前でダンススクール「ヴィーナス」を運営)の演技が行われる事が発表されると「うわー」という歓声があちこちからあがりました。会場の御伊勢公園の地面は余り濡れてはいません。水はけが良かったのです。

フェスタの様子を動画でもご覧ください

← 裏面へ続きます

周りで見ていた人々に話を聞いてみました

40代半ばと思しき父親(6年生の女子)「いいんではないですか。娘は1週間に4回通い、とても楽しそうですし家でも熱心に練習をしています。他の学校の友達も出来ているようです」。以前にやっていたという中学2年の女子「楽しそうで格好いいですね。またやってみたいですね」牛玖新一郎さん(シルバー会員)「楽しい集まりでいいですね。賑やかなイベントもあり喜んでいます」

11時45分頃から、本部テントの隣のステージ上で軽音楽の演奏も始まる。

パソコン班の森政雄さん90歳をリーダーとするウクレレチームのハワイアンである。

午後には草笛の演奏とジャズの演奏がありました。

ハワイアン演奏

草笛演奏

ジャズ演奏

ふすま張替え班

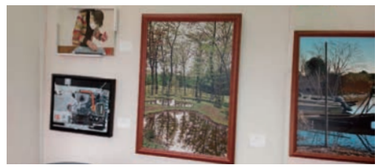
会場設営風景

入会案内

会場設営風景

スマホ・パソコン班

ダンスチーム



会員作品

各展示ブースの声を聞いてみました

「ふすま張替え班」有賀班長―このフェスタには初めての参加です。午前と午後ふたつのグループで分担しています。お客さんの反応では「60歳くらいの女性ですが、興味はあるが難しそう。特にピンと張るのが大変みたいですが具体的にはどうするのですか」**「入会案内」**―「シルバーてどんなことをやるのですか。入会するにはどうしたらいいのですか」説明会のご案内とパンフレットを渡します。**「スマホ・パソコン班」**―「今まであったアイコンが消えて困っています」「ラインとヤフーの合併で登録をしないと11月からラインが使え無くなると言われているが、どうすれば」など**「会員作品」**―写真と見まがう絵画が何点もあり沢山の人を惹きつけていました。

取材担当／広報委員　小沼　英夫

会員互助会で講演会を開催

会員互助会(岡本恒雄会長)では新企画として講演会を開催することとし、第一回目を11月21日ミレニアムセンター佐倉で開催した。テーマは「健康長寿は自分の力で」、講師は医療ジャーナリスト兼演出家の塩田芳享(よしたか)氏。

副題として「健康長寿をサポートしてくれる街つくり」を掲げ主な内容は次の通り。

1.お金をかけないで、自分の力で健康を守る2.原動力は「食べる力」と「噛む力」3.有益な情報を知って、賢い患者になる4.医療の選択をするのは、患者本人など。講師の塩田氏は数多くの著作と健康系の報道番組を演出している。

プロフィル
1957東京都生まれ。医療ジャーナリストとして、書籍・雑誌・講演等で医療情報を発信する傍ら、ドキュメンタリー番組・医療番組の企画・演出。現在は佐倉市シルバー人材センター会員

佐倉産業大博覧会

佐倉産業大博覧会とは？

佐倉産業大博覧会は、市内の産業経済団体、農業団体、福祉団体などが出展し、市民の皆さんに佐倉の産業の魅力を紹介する大イベントです。来場者は装いと工夫を凝らした各ブースで、「見る」「買う」「体験する」などで楽しむことができます。

開催前の準備でお忙しい市役所商工振興課の山口班長を訪ね、お話しをお聞きしました。「佐倉産業大博覧会は、前身の「佐倉産業まつり」と「佐倉アグリフォーラム」が2021年に統合され、草ぶえの丘で今の形で開催されるようになったものです。今年で３回目です。「佐倉アグリフォーラム」が障がい者の農業や企業への就業支援を目的としていたこともあり、今も多数の障がい者支援団体に参加してもらっています。開催地の草ぶえの丘は自然が豊かで、子供さんが動物とも楽しめる、イベントとして最適の場所だと考えています」と、山口班長。

商工振興課の山口班長

年々規模が大きくなり、今年の出展ブースはキッチンカーも含めて115店、昨年から5店増えたとのことでした。

「集まれ！佐倉の農・商・工」のかけ声の下に、様々な産業の団体が佐倉草ぶえの丘に大集合しました。

休憩スペースもいっぱい

シルバー人材センターのブースでは

開催初日の11月11日(土)は少し肌寒い曇りの天気でしたが、午前の早くから、会場は小さな子供さん連れのご家族で大賑わいでした。ブルーの幟(のぼり)がたくさん立ったシルバー人材センターのブースでは、センターの役割の展示とリーフレットの配布が行なわれていました。子供さんにも喜んでいただけるように、色とりどりの風船とお菓子の袋もたくさん用意されていました。「特にお孫さん連れのおじいさんに人気です。アンケートの回答では、ほとんどの方がシルバー人材センターのことを知っているとのことで、随分認知度が上がっているなと感じました」と羽部事務局長。徳野さんからは「パネルで説明をすると、シルバーではそんな仕事もしているのと驚かれる人も多いです。こういう機会でさらにシルバーのことを知って頂きたいです」

シルバー人材センターのブース

もうひとつのブースでは

シルバー人材センターのもう一つのブースは体育館の産業PRブースの中にありました。体育館に入ってすぐ右の角、襖の張り替えに一生懸命作業している姿が目立ちました。

襖の張り替え実演

実演作業を熱心に見ていたシルバー会員６年になる宮川さん。「今の仕事は単純作業ですが、この張り替えの仕事は技術を身に付けられるし、１年程度でほとんどの仕事をお覚えられるとのことで、魅力的だなと思って見ていました」

午後は障子の張り替え

さまざまなブースでは

全部で115あるブースのそれぞれが興味深い展示や実演を行なっていましたが、その中から特に注意を引いたブースをご紹介します。

『カミツキガメ捕獲隊』：「農家に駆除を委託していますが、今年は250匹を駆除しました」と鹿島川土地改良区の高橋さん。

カミツキガメも参加

『めざせイノシシマスター』：イノシシの剥製を展示して、くくり罠(わな)の実演をしている佐倉市農政課のブース。活動を知ってもらい興味あれば駆除活動に参加して頂きたいとのこと。

イノシシとくくり罠

『SL100周年実行委員会』：黒い石炭アイスを売っていました。佐倉を走っていたSL車両の保存活動をPRしていました。

『佐倉南高校』と『佐倉東高校』の２つの高校が参加。佐倉南高校の生徒さんと先生が、今取り組んでいる佐倉をよりよくする活動をアピールしていました。

佐倉南高校のブース

『さくら蕎麦の会』：蕎麦打ちの実演を行なっていました。根郷地区でそば栽培も行なっているという22年も続く団体です。

蕎麦打ち実演

その他にも、お話しを聞いて回るとあっという間に時間が過ぎてしまうほど、たくさんの興味深いブースがありました。佐倉の魅力を再発見することができました。

取材担当／広報委員　小野寺　弘孝

2023年度上期　地区長・副地区長会議レポート

開催日時　2023年10月13日（金）　午後1時30分～午後2時45分
場所　ワークプラザ２階会議室
出席者　５地区の地区長・副地区長13名、SSJC三役３名、合計16名
主要議題　（１）令和５年度上期班長会議の報告
（２）定期便手渡し実態調査結果の報告

2023年上期班長会議の報告を主な議題とした会議です。開会宣言、安全標語の唱和、会長挨拶と続いて議題審議に進みました。ここでは、議論の中心になった定期便手渡しとWeb媒体の活用に注目しました。

定期便配付の現状

定期便手渡しの実態として報告された各地区のその割合は、平均的に1割～2割程度という感触です。この背景に共通するのは次の3つです。

(1) 訪問しても反応が無いときはポストに投函して、或いは玄関先等に置いて配付完了
(2) 在宅する家族への手渡し
(3) 来訪者との接触を避ける会員

これ等の状況は、本人に会う機会の減少を誘います。

定期便手渡しの見直し

班長の職務は、地域班設置規程の職務第5条で『班員の情報（就業情報、健康情報）の把握に努め、必要と認めた場合には地区長へ連絡する』と規定されている。これを拠りどころに、定期便の配付で自宅を訪問した際に班員の状況を把握するのです。今回の調査では、この規程と現実との乖離が明らかになりました。地域班制度は他にも課題があり、見直しの議論が始まったところです。

Web媒体の活用

Web媒体による意思疎通に拒否感のある会員も多いという一方で、スマートホンでLINE、メール、QRコード検索を利用する班長は7割を超えるという報告もありました。また、これを当初は敬遠していた或る班長は、丁寧に教えてもらってこの地区の班長間の連絡にLINEを使えるようになり、今ではその便利さを実感しているとの生の声がありました。新しいことは小さく始めると不安も少なく、やがて慣れるという絶好の事例でした。

会議を取材して、地域班運営の在り方が変わる予兆を感じました。

取材担当／徳野　廣一グループリーダー